

やすらぎ

2019.9
september
Vol.80



「大倉岳山頂からの蓬田村」

蓬田村にそびえる「大倉岳」から、陸奥湾を眺める。海のイメージを抱く蓬田村だが、総面積の8割は山林。村の西側には津軽半島の脊梁をなす中山山脈が走り、標高500メートルから700メートル級の山々が連なっている。

その中心をなす大倉岳は、標高677メートル。古くから信仰の山として地元の人々に親しまれてきた。

青森市から国道280号バイパスを車で走り、「村の駅よもつ」の手の前の看板を山側に進む。

登山口から約3キロメートル、120分程度。深い森に抱かれたヒバやブナの原生林には登山道が整備され、山野草や山菜、小動物を見つげながら散策が楽しめる。「七曲がり」の登りなど、急勾配を登り切ると、赤い鳥居と祠のある頂上に到着だ。

山頂からは北に津軽海峡と北海道、東に下北半島と陸奥湾、南に八甲田連峰、津軽平野と、大パノラマを眺めることができる。

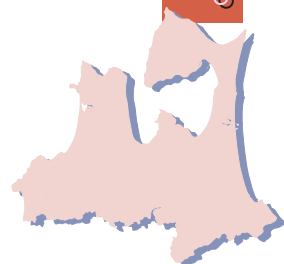
大倉岳の近くには、尾根づたいに登山できる赤倉岳。また、袴腰岳、黒滝など、大自然を体感できる山々が点在している。この秋、ぜひ登ってみてはいかがだろう。

ずっとトライしたかった「果実を育てる仕事」にゼロから挑む！

やまだ
山田

しゅん
俊さん(33歳)

やまだ
山田 園実さん(30歳)



キュートな笑顔と、ひた向きの姿勢……。鶴田町初の地域おこし協力隊となった山田俊さん園実さんご夫妻は、首都圏から移住して1年。地元の中に溶け込み、誰からも愛されている。

岐阜県出身で、ペットボトルのおまけを考えるというユニークな仕事をしていた俊さん。八丈島出身で幼稚園教諭をしていた園実さんと東京で知り合い、2年前に結婚した。

移住のきっかけは、転勤の多い仕事だった俊さんが、手に職を付けた

い、やるならフルーツを育ててみたい

と、夫婦で東京の「ふるさと回帰支援センター」を訪問したこと。「そこで鶴田町が日本一のスチューベンの

産地で、高齢化による担い手不足であることを知りました。青森県田中

里町は妻の母の出身地ということもありですが、何より鶴田町職員の

丁寧な説明と優しい人柄に魅かれ、ここならやつていける！と移住を決

めました」と俊さん。

現在は町役場の職員として、任務である町の情報発信と、スチューベ

ン農家を目指して頑張っている。



「最初の年はいろんなことにチャレンジさせてもらいました。スチューベン観光農園のお手伝いから、ワイン作り、町外にも足を伸ばして、弘前の伝統野菜セリ、



深浦ではニンニクの収穫体験もしました」と声を弾ませる。

園実さんは「第18回ふるさと自慢

わがまちCM大賞」に出演し鶴田町の「あずましさ」を表現。「津軽弁を勉強しましたよ(笑)。大賞をとれた

ことも凄いです、これまで話したことのない町の人に『CM見たよ』って

声をかけてもらえたのが一番嬉しかった」と明かす。

また、幼稚園教諭時代の経験を生

かし、小学校の親子レクでスチューベンを食べたあとの皮を活用した草木

染めを指導。「子どもたちがとても喜んでくれたので、今後も何かの力

タチで継続したい」と俊さんも意欲的だ。

そして今年の春から、津軽ぶどう協会の成田義弘会長の園地で直接指導を受け、本格的にスチューベンの栽培技術を学んでいる。

「本当に親身になって教えて下さるんです。剪定、めかき、わき芽取り…。

ぶどうはこうやってできるんだと、育つていく過程を体験し、おいしいもの

を作るには思い切ることが必要なんだとか、日々勉強の連続です」と2人。

地域の運動会、宵宮に参加し、つるたまつりでは、ねぶた囃子に取り組む。

「雪かきは大変だけど隣の人が手伝ってくれるし、リンゴ、野菜、魚などの

お裾分けには驚きました」とにつこり。

「毎日岩木山や田んぼの風景を見て暮らすのって気持ちいい。満員電

に揺られていた頃とは大違いです。それに鶴田町にはツル多はげます会の

会長さんをはじめ、ユニークな方々がいっぱいいらつしやるんですよ」と園実さん。

津軽弁は言葉が早過ぎて苦戦しているというが、毎日をおもしろがっている。

「実は、安定した職を捨てていいのかと親には反対されました。でも自分達の想いをしっかり伝えました。今は、農



業という、ずっとやりたかったことに挑戦できるのが嬉しい。任期は3年、まずは1人前のぶどう農家になれるよう努力したい。ちょうど園地も見つけ

かりそうで、来年はゼロから自分たちで取り組んでいけるんです」と俊さん。

「将来はスチューベンのみならず、種無しや大粒などいろんな品種を作

付したい。観光の一環として、ただもぎ取って終わりではなく、食べた皮で

の草木染めなどできたらいいなあ。ジャムなどの加工品も作りたいです。

その延長として農家民宿もやってみたい」と夢を膨らませる。

「ここへ来たときの覚悟が、無駄にならないよう頑張ろう！」と微笑む園実さん。

ナチュラルな雰囲気奥に秘めた、強い決意が眩しかった。

ナチュラな雰囲気奥に秘めた、強い決意が眩しかった。

清水典子の首都圏で

見つけた！あのもう一人。

【第37回】

18歳で離れたふるさとに支えられて今がある

青森市(旧浪岡町)出身 青森居酒屋「跳人」オーナー 小野 幸春 さん

穏やかな表情と温和な雰囲気を持つ

ち主だが、小野さんは攻めの人。思わず「攻めますねえ」と口にしてしまった。

今年69歳になったが、7月には3店目の直営店であるワインバー「La cest La」(ラ・セ・ラ)を開店した。

フランス語で「ワインバーはそこにあるよ」というような意味合いだが、もちろんぶたの掛け声「ラセラ」の響きを持たせている。フランス料理とワインと青森の地酒のお店としてデビューした。

J R 神田駅南口から徒歩1分。フランス、オーストラリア、アルゼンチンなど100種類ほどのワインが揃い、リーズナブルな値段で気軽に飲んでもほしいというのが小野さんの願い。ワインはソムリエとして帝国ホテルに30年勤務し

た小野さんのセレクトだ。

青森を18歳で離れ、50年の年月が流れた。「ありきたりな表現ですが、本当に光陰矢のごとし。あつという間の50年でした」

●青雲の志を抱いて

7人兄弟の5番目だった小野さんは、とにかく自立しなければという思いを抱え、寝台特急に乗って上京したという。

「東京に行けばなんとかなる。そう思えるいい時代でしたね」と振り返る。

時代は高度経済成長のただなか。結婚式場に勤務するなかで、飲食業をやつていきたいと将来の夢を定め、アルバイトをしながらホテル学校に2年通った。これからは日本にもワインの時代がやってくるのではないかという思いから、ワインの勉強も始めたという。

強運の持ち主だ。帝国ホテルのバーに配属となり、ワイン担当となった。

「当時はまだワインの文献や資料も少なく苦労しましたが、ワインの奥深さ

に魅了されました」

初めてボルドーを試飲した時の驚きは忘れられない。こんな飲み物があつたのかとショックを受けたという。

「帝国ホテルに来るお客様は大企業や六大商社の方、政治家など各界名士の方ばかりでした。華やかな時代でしたね。ホテルではフランスやアメリカに研修に行かせてくれ、第2外国語としてフランス語を学ぶため、日仏会館に10年通わせてくれるなど勉強させてもらいました」

帝国ホテルに勤務していれば安泰だが、敢えて清水の舞台から飛び降りる気持ちになるところが、小野さんらしいところ。回りからは独立したつてすぐにつぶれるぞと忠告を受けながら、50歳で帝国ホテルを辞め、独立した。

●自分の力を試したい

残りの人生は故郷の力になりたいと神田の駅近くに青森居酒屋「跳人」を開いて13年になる。

「青森ねぶた祭は誰でも自由に参加

できるオープンな祭り。県内外の人誰でも気軽にきてほしいという思いを店名に込めました」

「跳人」は故郷を懐かしむ人はもちろん、青森のファンや近くで働くサラリーマンが来店する人気店となった。

小野さんは今また次なる夢を抱いている。それは「黒石焼きそば」の居酒屋を開くこと。子どものころ、小野さんにとって黒石焼きそばは「馳走で、特別な存在だった。平打ちの蒸し麺にこだわる。そしてもう一つ、青森にブドウ園を作ること。いつかはそのブドウを使ってワインを作れたら」と夢は果てしない。

「幸運ときまざまな方に支えられて今があります。いい時代だったといえそうですが、若い人には好きなことを見つけてほしい。好きなことが見つかったら、あとは忍耐。10年20年30年と続けていけば必ずその道のオーソリティになれる。津軽のじよっぱりで続けてきたのかな。青森の自然は厳しいけれど、人間はやさしいし、食べ物も美味しい。なんだかんだ言つて、故郷に応援してもらっていますね」

青森を離れて50年あまり。小野さんの夢は今、青森と共にある。

ホッとタイム

この夏、ロシア

との国境の島礼文島を旅しました。

札幌から特急宗谷に乗り稚内まで5時間半。稚内港から礼文島までフェリーに乗り換え2時間。8月の上旬というのに礼文島は霧雨が降り、寒さに震え、北海道の広さを実感しました。

礼文島の隣にある利尻島には会津藩士の墓が残されています。宗谷や斜里町では北方警備に就いた弘前藩士たちが、寒さと飢えに苦しみ殉死したことが知られています。

東北各藩が蝦夷地に派兵され、北方警備にあたつたと聞いていましたが、このはるかな距離をどのように移動したのでしょうか。苦難に満ちた道のりだったに違いありません。東北の人々の忍耐強さと誇りを改めて思いました。





鶴の里ふるさと館



鶴田八幡宮



街角インタビュー



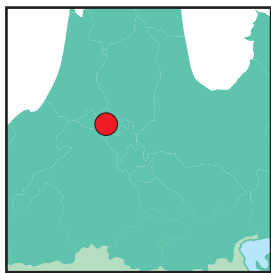
WANOワイナリー

オーナー 八木橋 英貴さん

東京からUターンし、ぶどう農家を継いで10年。鶴田町のワイナリーをオープンさせました。スチューベンで作った赤ワインは飲みやすいですよ。他にナイヤガラ、キャンベルでも作ります。9月下旬に収穫したぶどうは、11月中旬ヌーヴォーになるんです。ここはカフェもあり、見学もできる観光型のワイナリー。ぶどう畑を眺めながら、ワインを飲んでもらいたいです！ワインとつながる豚のイベントも開催しました。フリースペースでは、テントを張ったり、バーベキューなども楽しめます。



津軽ぶどう村 代表
津軽ぶどう楽園 代表
ツル多はげます会 会長
月曜から夜ふかし 津軽井マスター



[鶴田町]

市町村めぐり

津軽平野の真ん中、

「スチューベン」ぶどうの生産量日本一を誇る鶴田町。

総面積約46平方キロメートル、人口約13000人、

津軽富士見湖に架かる日本一の木造三連太鼓橋「鶴の舞橋」は

TVCMで紹介されてから人気が高まり、全国から観光客が訪れる。

この美しい橋は、全長300メートルの総ヒバ造り、

樹齢150年〜400年という「県産ひば」の一等品を使用し、

日本古来の、建築技術を駆使して造られた。

つがいの丹頂が翼を拡げ、湖面を飛躍するかのような雅な姿は、

四季折々に訪れた人を魅了する。



日本一長い木造三連太鼓橋 鶴の舞橋

丹頂鶴自然公園

「白熱!!歩いて渡ってみたい橋全国ベストテン」5位にも選ばれ、

地元の観光ガイドは「日本一ながいきのはし」と洒落て案内する。

江戸時代には多くの鶴が飛来したことで、

丹頂鶴自然公園には8羽のタンチョウ鶴が育てられていた。

近くの「鶴の里ふるさと館」は

茅葺き屋根の古民家で、昔の暮らしが体感できる。

鶴田八幡宮には「ツル多はげます会」の御神像である玉祖命の像。

「毛がない」像をそとでれば、「怪我無い」と慕われ、

「ハゲます」像は参拝者を「励ます」といふ。

なぜだか愉快な人たちに出逢える、それが鶴田町だ。

須郷 貞一郎さん

ニューヨーク生まれの品種が、鶴田の気候にマッチして極上の甘さと美味しさを生む「スチューベン」。津軽ぶどう村は、鶴田町のぶどう農家が集まり、ぶどうの共同販売と、ぶどうジュースなどを販売しています。また「津軽ぶどう楽園」では、定年退職者や高齢者にぶどうの栽培を通じて労働の場を提供しています。興味のある方は遊びに来てください！ツル多はげます会の目標は、青森県を「世界のはげの聖地」にすることです(笑)!!



福祉健康保養センター
津軽富士見荘

センター長 一戸 雅人さん

「鶴の舞橋」が眺められる、湖畔の宿です。今の季節、富士見湖パークでバーベキューを楽しむのがおすすめです！八甲田から朝日が昇るとき、橋が真っ赤に燃える風景や、岩木山に夕陽が傾く頃の絶景、ライトアップも綺麗です。波がないときは湖に橋が映り、素晴らしい眺めが広がります。津軽の郷土料理を楽しみながら、源泉掛け流しの少ししょっぱい温泉に浸かれば、お肌がつるつるになりますよ。

おらほの一番



玉松台スポーツガーデン

野球場、テニスコートが整備されている玉松台スポーツガーデン。特に野球場はホームベースからスタンドまでの距離が両翼とも97メートルもある、広い球場となっています。

青森市から近いこともあり、高校野球の練習や軟式野球の県大会の試合が行われます。周辺は公園としても整備され、憩いの場となっています。



蓬田産トマト

トマトの産地として知られる蓬田村では、昭和40年代からトマト作りを始め、昭和50年代にはトマトハウスの増設、集出荷施設の整備を行い、農家の栽培意欲向上とともにトマト栽培を本格化させ、今ではトマトの一大産地となりました。

現在トマトの作付面積は約4.5ヘクタール、約40戸の農家が、主力品種の大玉「桃太郎」に加え、中玉、小玉の、新品種トマトの導入により、新規就農者の育成とブランド化を図ってきました。

蓬田村で栽培されたトマトがおいしいのは、この地域特有の「やませ」により、夏場に昼と夜の寒暖差が生まれるから。トマトは気温の低下から自らの身を守ろうと養分をため込み、より美味しいトマトができるのだそうです。

玉松海水浴場に隣接する「マルシェよもぎた」では、新鮮な蓬田産トマトはもちろん、トマトケチャップなどの加工品を販売。海を眺めながら、蓬田産トマトを使ったオムライスやスパゲッティなども味わうことができます。

蓬田産タマネギ

養殖ホタテの産地でもある蓬田村では、平成28年度からホタテ養殖の残さと、稲作から出るもみ殻、養鶏場から出る鶏糞を混ぜて堆肥を生産し、村内の農地で活用する地域内循環型農林水産業を実践してきました。

平成29年度からは、転作作物の主流であるソバから高収益作物である玉ねぎへと転換。現在約5ヘクタールで13戸の農家が作付しています。また、弘前大学との共同研究などにより栽培技術を確立させ、更なる質の向上と出荷体制の整備に取り組んでいます。

蓬田産の甘くて美味しいタマネギは「マルシェよもぎた」などで購入することができます。ぜひ一度、味わってみませんか！

お問い合わせ / 蓬田村役場 TEL.0174-27-2111

海と山の豊かさをとめて、 蓬田村へ出かけよう！

津軽半島の陸奥湾側。

山があり海があり、

四季折々の豊かさを体感できる蓬田村は、

青森市に隣接しアクセスも抜群。

今回は、蓬田村内の見どころや農産物など、
とっておきの情報を紹介します。



玉松台と古城の沼

玉松海水浴場の西側の小高い台地にある玉松台は、松の木に囲まれた1.88ヘクタールの緑地公園。太い枝が輪状になっている樹齢300年以上の老松「玉松」があることから玉松台と呼ばれています。江戸時代、青森港や油川港へ向かう船は、この玉松を見て「あと何時間で着く」と目算し、地元の船は灯台代わりの目印にしたと伝えられています。高台から眺める陸奥湾の景観は美しく、詩情たっぷりです。

また、園内には日露戦争の戦没者の墓や忠魂碑が建てられています。この墓は、戦死して異郷の土となっても魂だけは故郷に葬られたいと願う出征兵士が、決死の覚悟で建てたもの。現在は古城の沼も整備され、松風が聞こえる、静かなやすらぎのスポットとなっています。



蓬田村ふれあいセンター『よもぎ温泉』

村民の健康づくりを願い、平成4年にオープンしたよもぎ温泉は、平成29年にリニューアル。140人も入れる大浴場、イベント湯「源泉の湯」、ヒバを全面に使ったサウナは、観光客と村民が会話を楽しめる、ふれあい温泉です。

よもぎ温泉の泉質である「高張性のナトリウム塩化物泉」は全国でも珍しい泉質です。浸透圧が高いため、温泉成分が体に浸透しやすく濃厚な温泉成分をたっぷり吸収できます。

大倉岳や陸奥湾など、大自然を満喫したあとで、ゆったりひと休みしてみませんか。

蓬田村郷沢字浜田136-4 TEL.0174-27-2170

開館時間:9:00~21:00 休館日:毎週火曜日

入浴料:大人350円・中人(小・中学生)140円・小人(幼稚園以下)60円

(回数券11枚綴3500円)※毎週土曜日は中学生までの入浴料が無料



著名な演出家が患い、注目を集めた「前立腺がん」では一体どんな病気なのでしょう。

前立腺は、男性特有の臓器で、膀胱の真下、恥骨の裏側にあります。胡桃ほどの大きさで、スムーズな排尿を助け、精子の栄養となる前立腺液を分泌する重要な臓器です。

前立腺がんは、もともと欧米人に多い病気ですが、日本でも食の欧米化や高齢化にともない、50歳〜60歳以上の男性が多く発病しています。遺伝や、高脂肪、高たんぱくの食生活が影響しているとも言われていますが、はっきりした原因は、まだわかっていません。

そして、医学の進歩により、腫瘍マーカーであるPSA（前立腺特異抗原）検査が普及し、早期に見つけることができるようになりました。

前立腺がんは、初期症状がほとんどありません。排尿時の痛み、尿もれ、肉眼でわかる血尿など、症状を自覚したときには、すでにがんが進行している場合が多いようです。

そのため、まずは検査を受けることが大切です。前立腺がんの早期発見は、血液検査



検査で
早期発見!!

で血液中のPSA（前立腺特異抗原）量を測定することです。この値が一定のレベルを超えると、高い確率で前立腺がんの可能性があります。PSAが高いときには、エコー検査や前立腺の組織を取る生検を行い、前立腺がんが疑われたときは、CT、MRI、骨シンチグラフィなどの検査に進みます。

血液検査は、健康診断の項目に含まれている場合もありますが、50歳をすぎたら、まずは年に一度、内科や泌尿器科でPSAの値を調べてもらうことをおすすめします。

動き盛りの健康法

腰痛予防に役立つ体操!

腰痛は、運動不足や老化が原因で起きている場合がほとんどです。足腰の筋肉を鍛える体操を毎日続けて、腰痛を予防しましょう。（ただし、炎症を起している急性の腰痛、椎間板ヘルニアは安静が第一です。）



腹筋を鍛える体操

背筋を鍛える体操

足を鍛える体操

腰を鍛える体操

かかとを
ひざに

腰をやわらかくする体操

あいちゃんの読んで得だね!

今回「やすらぎ」の取材で
訪れた鶴田町と蓬田村の、
とっておき情報を紹介します!!

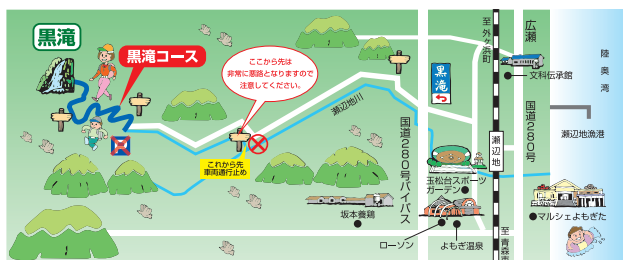
蓬田村の秘境「黒滝」へ行こう!

《蓬田村》

美しいブナ林の中にある「黒滝」は、蓬田村の隠れた名所です。

登山口までの車道が決壊のため、現在車両の通行が出来ません。下の地図の⊗の地点に車両を止め、徒歩60分で登山口に着きます。さらに、登山口から、川沿いをゆったり歩くこと約1.5キロ40分で、秘境「黒滝」に到着。水量豊富な落差11メートルの滝は、雄大で迫力満点!

秋の紅葉シーズン、マイナスイオンを浴びに、みんなで出かけてみませんか?



■お問い合わせ / 蓬田村役場 TEL.0174-27-2111

観光ガイドの案内で鶴の舞橋を渡ろう!

《鶴田町》

津軽富士見湖に架かる日本一の木造三連太鼓橋「鶴の舞橋」。地元観光ガイドの案内で優雅な橋を渡り、散策してみませんか。

2年前から活動を開始した観光ガイドのメンバーは、地元を中心に、町にゆかりのある9人。

「鶴の舞橋」の誕生秘話、悲恋伝説など、津軽弁で楽しく案内してくれます。

おもてなしの心がいっぱい観光ガイドと、素敵な時間をぜひ!



●お申し込み

富士見湖パーク駐車場そばの「観光ガイド 集合場所」で直接お申し込み
※事前予約で曜日や時間の指定も可能
※観光バスなどでお越しの団体のお客様も是非ご利用下さい

●案内時間

原則午前10時30分と午後1時30分の2回ですが、相談の上、随時ご案内致します。

●所要時間

約1時間(時間の相談可)

●料金

開催日は無料 開催日以外要予約
個人利用(20名以下) ガイド1名 2,500円
団体利用(21名以上) ガイド1名 3,000円



■お問い合わせ /

① 鶴の舞橋観光ガイド ーだんぶり MikoPa の会ー

竹浪 正顕(たけなみ まさあき)

TEL: 090-7660-7386 メール: ryu-g.0215@docomo.ne.jp

② 鶴田町役場 企画観光課 観光班

TEL: 0173-22-2111

※役場での受付は午後4時30分まで(土日祝日・御用納めを除く)

♥隣接する「大豆・お米加工施設」では、米粉パンや発芽玄米を加工、販売していました。人気のジャンボシリーズはいろいろあって「びっくりぱん」や「でっかいシュークリーム」、鶴田の大豆で作った「バケツ豆腐」は、1人では食べきれない大きさです！



♥ランチタイムは道の駅のレストラン「幡龍あるじゃ店」へ。皮にスチューベン果汁を練り込んだ「黒豚餃子」はじめ、「豆乳担々麺」「天井セット」「あんかけ焼きそば」「味噌ラーメン」などをいただきました。



《蓬田村》

♥山海の幸が豊富な蓬田村。ちょっぴり早いランチタイムは、国道280号バイパス沿いの「村の駅よもっと」へ。大きな水槽の中の活魚と鮮魚が出迎えてくれました。



♥「大きいおにぎり」は、このボリュームで1個150円。後ろにある普通サイズのおにぎりとは比べてみて！倍くらいはありますね。大倉岳や黒滝へ向かうときに、持参したい一品です。



♥「魚とたまごかけごはんの朝定食」は、何と、これで500円！使われている蓬田村、坂本養鶏の「すったまご」は、蓬田村の良質な水と、竹酢液から生まれた、濃い黄色の生たまご。「おいしい〜！」。



♥この日の「日替りランチ」は、陸奥湾産ホタテを使ったフライでした。「中華ざる」には、特産のミニトマト。「冷やしラーメン」には坂本養鶏の「温泉卵」が乗っていました。ほかにも、県産野菜を使った「野菜炒め定食」や「野菜ラーメン」を味わいました。



♥お土産は「マルシェよもぎた」でGET。ビタミンCたっぷりの「桃太郎トマト」からブランドトマトまで、たくさんの種類のトマトが並んでいます。



♥トマトの加工品は、栽培農家さんが自ら加工して作った絶品トマトケチャップをはじめ、いろんな料理に使えるソースやピューレ、ジャムもあるんですよ。トマトの旨味がギュッと詰まったドライトマトでは、パスタやスープが作れるんだって！



♥今回は、おなかいっぱい食べられなかったけど、カフェでは、採れたてのフレッシュトマトを使ったオムライスや、ナポリタン、カレーライスもあります。次回はぜひ、味わってみたいです！

♥おやつタイムは「ジェラート」をいただきました。沖縄の塩、メロン、抹茶、チョコなど、いろんな美味しさを食べ比べてみて。



♥そしてもうひとつ、蓬田村で有名なお菓子が「フライ万中」。中にたっぷりの餡が入った丸いあんドーナツは、国道280号バイパス沿いの「森菓子店」で購入することができます。



あいちゃんのほのぼのコーナー

—— しゃれてるネの巻 ——

♥ 取材こぼれ話



《鶴田町》

♥ 鶴田町を訪ねたら、ぜひ立ち寄って欲しいのは「道の駅つる」の鶴の里あるじゃ。テラスのあるメイン施設には「スチューベン」の生産量日本一の鶴田町らしく、地元で採れた「スチューベン」を使ったお土産がいっぱいでした。一番人気という「スチューベン大福」は、やわらかいお餅の中に、甘酸っぱいスチューベン餡が絶妙。急速冷凍で遠方にも送れるようになったそうです。おなかにやさしい「飲むこんにやくゼリー」は、爽やかな甘さでした。



♥ 鶴田町産「スチューベン葡萄ジュース」は、果汁 100% で無添加！甘〜い！！「スチューベンサイダー」もありましたよ。



♥ 完熟したぶどうの香りをそのまま閉じ込めたワイン「葡萄酒」は、鶴田町自慢の逸品です。



♥ 「スチューベン」を使ったお土産はこのほか「あるじゃオリジナル！スチューベンの生どらやき」「スチューベンジュエリー」「スチューベン チョコサンドクッキー」「スチューベン葡萄ケーキ」などなど種類の多さにびっくりです。



♥ ほかに、「青森県産りんごジュース」、鶴田町のマスコットキャラクター「つるりん」をあしらった「つるりんプリントクッキー」、県産酒造好適米「華想い」を使用した「鶴の恩返し」もありました。



くみあい 情報板

平成30年度一般会計決算概要

歳入	負担金	9,677,534
	財産収入	32,280
	繰越金	7,986
	諸収入	7,040
	計	9,724,840

(千円)

歳出	議会費	3,073
	総務費	80,367
	給付費	8,619,906
	計	8,703,346

(千円)

- 歳入歳出差引額
1,021,494千円
- うち支払準備基金繰入額
1,020,000千円
- 翌年度繰越額
1,494千円

《退職事由別給付状況》

退職事由	人員(人)	金額(千円)
普通退職	205	463,799
長期勤続退職	24	315,424
定年、応募認定退職	381	7,647,648
特別職の退職	23	193,035
計	633	8,619,906

組合ホームページをご利用ください

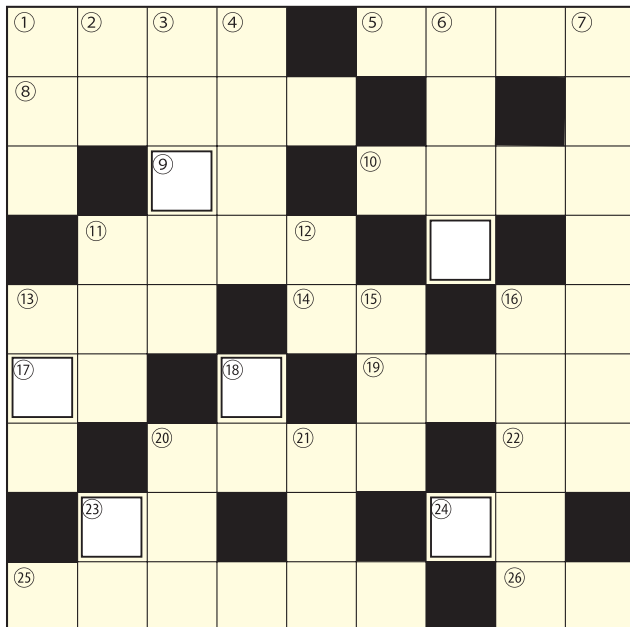
<http://aomori-taite.jp>

(主な内容/概要・例規集・様式・事務の手引・試算・構成団体決算状況・回報紙・リンク集・お知らせ)

あいのクロスワードパズル



□の中の文字を並べると、ある言葉ができます。(ヒントは「やすらぎ」の中にあります。) はがきにクロスワードの答えと、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、所属市町村名、「やすらぎ」へのご意見、ご感想、メッセージを添えて、〒030-0812 青森市堤町2丁目 1-1 青森県市町村職員退職手当組合「やすらぎ」編集室までお送り下さい。正解者10名様に抽選で素敵なプレゼントを差し上げます。締切/2019年10月末日消印有効



《タテのカギ》

- 1.唱歌「鯉のぼり」の3番目の歌詞に出て来る「○○○の滝」、登竜門としても知られている
- 2.元素記号「P」、骨や歯に多く含まれている
- 3.歌が上手に聞こえる歌唱法
- 4.「ナポレオン」「大富豪」「ババ抜き」などのゲームがある
- 6.きのこの種類、「香り○○○、味シメジ」
- 7.鶴田町にある溜池、「鶴の舞橋」でも知られる
- 11.「眩暈」
- 12.難しい漢字につける「ふりがな」
- 13.『木賊』、昔、天然のヤスリとして重宝された植物
- 15.「○○○ツリー」、「○○○ラーク」、「○○○マーク」
- 16.「石綿」、かつて、断熱材や防音材として重宝されていたが健康被害が指摘され使用禁止に
- 18.意気でおしゃれな男性「○○者」
- 20.小原庄助さんの好物「朝寝・朝酒・○○○」
- 21.鮭や鱈などの刺身を凍らせた、北海道の郷土料理
- 23.落語や漫才などの笑話の結末名

《ヨコのカギ》

- 1.「精霊の○○○○」、2017年に放送されたNHK大河ファンタジー
- 5.蓬田村にある「○○○○海水浴場」
- 8.栗をふんだんに使い、山の形に似せたケーキ
- 9.カトレア、オンシジウム、シンビジウムなどの種類がある
- 10.中東の国、首都は「ドーハ」
- 11.「○○○○シロップ」、ケーキやワッフルなどの菓子にかけるシロップ
- 13.蓬田村の特産品、主力は「桃太郎」
- 14.螺旋状の溝がついている固着用工具、ボルト、ネジなどもこの仲間
- 16.舌で感じる食べ物の感覚、「甘・酸・塩・苦」等々
- 17.建物の固定や目印のために地中に打ち込む
- 19.ボラなどの卵巣を塩漬けにした食品
- 20.「阿弔流為」、平安時代、東北での軍事指導者
- 22.牛のこと、福島県の郷土玩具「赤○○」
- 23.種族の族長
- 24.「雌」の反対
- 25.鶴田町の特産品、生産量は日本一
- 26.佐渡に生息する特別天然記念物

前回パズルの当選者

厳正な抽選の結果、次の10名様が当選しました。おめでとうございます。(応募数66名)

〈前回パズルの解答〉

おおわにおんせんもやし

〈所属市町村名・氏名〉

五所川原市	川村	淳	風間	浦村	能渡	善行
つがる市	工藤	透	五戸町	類家	和哉	
平内町	松山	秀子	五戸町	高谷	恵子	
平内町	森山	潤一	一部事務組合下北医療センター	麦澤	春菜	
鰺ヶ沢町	長谷川	誠	つがる西北五広域連合	木村	竹子	